



© NORIO MATSUMOTO

日々であり生涯だ。

全ての生命の

それがこの地球に生きる



© TAKAYUKI MAEKAWA

生きること。

生き抜くこと。

そして種をつなぐこと。



© YASUAKI KAGI I



© GO YAMAGATA

野生動物写真展

生 ライフ

いのちがおしえてくれること

鍵井靖章 / 前川貴行 / 松本紀生 / 山形豪

2017年7月8日[土]—8月20日[日] 開場時間=9:00~19:00

あゆむ
白鷹町文化交流センターAYu:M

〒992-0771 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331番地

休館日= 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日) 観覧料= 一般個人500円、高校生200円、中学生以下 無料
主催= 白鷹町文化交流センター 企画・協力= 富士フィルム株式会社 運営= (株)風景写真出版(隔月刊『風景写真』)
お問合せ= 白鷹町文化交流センター TEL. 0238-85-9071
関連イベント ギャラリートーク [日時] 8月5日(土) 14:00~15:30 [会場] 白鷹町文化交流センター 文化伝承室 及び ギャラリー
[講師] 写真家・鍵井靖章、石川 薫(隔月刊『風景写真』編集長) ※入場は当日の観覧券が必要

生 ライフ

いのちがおしえてくれること

動物写真家——彼らはなぜ野生に魅せられ、世界を旅し続けるのか。「生・ライフ」は、動物写真の世界に新風を吹き込む新世代の写真家四人の作品でつづる壮大な命の物語。写真家と被写体の間に張り詰める空気までもが感じられるような高画質の銀塩プリント群を前に、きっとあなたも自らの「生」と向き合うことになる。

プロフィール



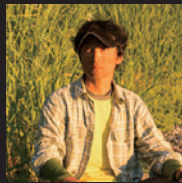
鍵井 靖章 YASUAKI KAGII

1971年兵庫県生まれ。大学在学中から水中写真を志し、プロ写真家の伊藤勝敏氏の門を叩く。オーストラリアなどでダイビングガイドとして活動した後、'98年にフリーの写真家として独立。自然のリズムに寄り添い、生き物にできるだけストレスを与えない撮影スタイルを信条とする。また、東日本大震災発生から三週間後に岩手県三陸沿岸の海に潜り、以降も海中から震災の傷跡と再生の様子を撮り続けている。'98年、「ミナミセミクジラの海」で第15回アニマ賞受賞。URL <http://kagii.jp/>



前川 貴行 TAKAYUKI MAEKAWA

1969年東京都生まれ。20代の頃、自然の魅力に目覚め写真を志す。動物写真家・田中光常氏に師事し、'00年よりフリーに。さまざまな野生動物の生きる姿をテーマに日本、北米、アフリカ、そして近年はアジアにもフィールドを広げて撮影に取り組んでいる。野生動物の間近まで接近することによって、その魂の領域に迫ろうとする作風から、近年は動物が生きる環境にも視野を広げ、'13年、第1回日経ナショナルジオグラフィック写真賞グランプリを受賞した。URL <http://www.earthfinder.jp/>



松本 紀生 NORIO MATSUMOTO

1972年愛媛県松山市生まれ。アラスカ大学卒業。年の約半分をアラスカで過ごし、夏は北極圏や無人島、冬はテナリ山麓の氷河上でかまくら生活をしながら、野生動物やオーロラの撮影に専念する。北米大陸最高峰・テナリにも登頂。その活動はTBS「情熱大陸」、米国ナショナルジオグラフィックのドキュメンタリー番組や雑誌、中学道德の副読本など、国内外のメディアで紹介される。日本滞在中はスライドショー「アラスカ・フォトライブ」で全国の学校、病院、地方自治体をまわっている。URL <http://www.matsumotonorio.com/>



山形 豪 GO YAMAGATA

1974年群馬県高崎市生まれ。幼少期から中学までの大半を中米や西アフリカの国々で過ごす。'93年に東京都内の高校を卒業した後、東アフリカのタンザニアに渡り動物写真を撮り始める。'95年にイギリス・イーストアングリア大学に入学。同校卒業後、'98年に帰国しフリーのカメラマンとして活動を開始。'00年以降、南部アフリカをメインフィールドと定め、1年のうち数ヶ月を現地でも過ごし、野生動物や風景などの撮影を続けている。また近年では、日本各地で講演会などを行っているほか、サファリツアーの野生動物撮影ガイドとしても活動している。URL <http://www.goyamagata.com/>

関連イベント ギャラリートーク **申込不要**

【日時】 8月5日(土) 14:00~15:30

【会場】 白鷹町文化交流センター
文化伝承室 及び ギャラリー

【講師】 写真家・鍵井靖章、
石川 薫(隔月刊『風景写真』編集長)

※入場は当日の観覧券が必要

写真家・鍵井靖章と、隔月刊『風景写真』編集長・石川薫が、自らの写真について、また展示写真について熱く語ります。



■お車でお越しの場合／山形市より国道348号線で約35分
■電車でお越しの場合／赤湯駅より山形鉄道フラワー長井線〔荒砥行き〕で「四季の郷駅」下車(赤湯駅から約50分)徒歩約4分
お問合せ=TEL.0238-85-9071